

水と衛生月間

国際ロータリー第 2590 地区ガバナー 長戸 はるみ



3月は「水と衛生月間」です。

日本の水は安全で、水道の蛇口をひねれば飲み水が出てきます。しかし今でも多くの発展途上国では川から水を汲んでいます。それにより疫病が広がり、健康被害が起きています。水汲みは女性や子供の仕事とされ、家事や学習の時間がないという問題もあります。教育の機会を奪われた女性や子供達は文字が読めない、書けないという識字率の低下につながります。やがてそれらが障害となって低賃金の労働者になり、貧困生活から抜け出せないようになります。水と衛生問題は識字率低下の課題とも繋がっていますので、ロータリー財団の地区補助金制度等を活用してプロジェクトを立ち上げ、支援していければと思います。しかし、例えば井戸などを設置しても、何年かして故障した時に修理の仕方も教える等継続性がないと、やりっぱなしの奉仕活動になってしまうことは問題です。また奉仕活動を、公共イメージとロータリーの認知度向上のために新聞などで取り上げ紹介していただき PR することも必要だと思います。

さて、私の奉仕活動の話ですが、毎年3月3日に「長戸はるみひなまつりチャリティーコンサート」と題し、箏の演奏会を25年間続けてきました。残念ながらコロナ期に中断されてしまいましたが、毎年舞台上に大きな桃の木を活けて、終演後には皆様に配り、毎回それを楽しみに来て下さる方もいらっしゃいました。

チャリティーで集められた寄付金は、耳の日（3月3日）にちなんで「中途失聴者要約筆記の会」という団体へお送りし、支援してきました。また、以前所属していたクラブの奉仕活動として行っていた事がきっかけですが、生まれつき耳の聞こえない人ではなく、途中で聞こえなくなった人達へ、紙に書いて伝える支援活動しているグループに対して、紙と筆記用具の援助を続けました。以前は、毎日新聞に差し込まれる広告の裏が白いものを使って用立てる等工夫していたのですが、今では公共的に支援いただけるようになり、私も安心いたしました。

私は毎回単にチャリティーボックスを置いておくのではなく、コンサートの受付や司会の方にもご協力いただき、どんなチャリティーなのかを説明する事を大切にしました。お陰様で今でもコンサートに関わってくださったスタッフの方たちとはお付き合いが続いています。

以前ロータリーの友誌に、一滴の水が波紋を広げるように、個人の奉仕が大きくなうねりに変わってロータリーの支援が波紋の様にさらに広がっていく事を願っています、という記事を読んだことを思い出しました。

一滴の水が波紋の様に広がってゆくようにロータリー活動でもそのほかの事でも波紋の様につながって大きくなることを願っています。